

7月の行事

平成26年度盛岡二高復興交流事業

7月13日(土)、復興交流事業として宮古市を訪問しました。部活動を引退し、これまで復興交流事業等に参加することが難しかった3年生を中心に、活動を継続している華道部・JRC同好会部員と併せて49名が参加しました。

二高から社会へと巣立つ前に、岩手の「今」を見つめてほしい…様々な角度から震災を知り、自分たちにできることを考えてほしい、その思いを込めて事業を計画しました。

<午前:宮古市田老地区「学ぶ防災」>



午前は、宮古市田老地区にて宮古観光文化協会が行っている「学ぶ防災」で防潮堤を見学しました。防潮堤から目にする風景、実際に震災を経験したボランティアガイド澤口さんのお話に生徒は改めて震災時に起きたことや自然災害の恐ろしさを肌で感じ、「命の大切さ」や「自分で自分の命を守ること」「これからの自分たちにできること」に思いを巡らせた様子でした。

<午後①:グリーンピア三陸みやこ内 田老サポートセンターにて(たろちゃんハウス見学)>



小雨がばらつき始め、昼食はご厚意により、たろちゃんハウスに隣接する田老サポートセンターの一室をお借りし、いただきました。

お弁当は、田老観光ホテル料理長大下さんがたろちゃんハウス内のプレハブ店舗で作ってくださったものを全員でいただきました。みんなで感謝しながら、おいしく、残すことなくいただきました!

田老サポートセンターの職員の方々にも様々お気づかいをいただき、ありがとうございました。





昼食後、宮古市社会福祉協議会会長赤沼さんからお話を伺いました。赤沼さんの温かいお人柄に触れ、震災時の様子や仮設住宅や商店街の皆さんがこれまでどのような思いで過ごされてきたかを伺いました。皆、真剣に耳を傾けていました。



華道部と家庭クラブがそれぞれ思いを込めて準備した花ろうそくやペットボトルカバーをお渡ししました。



<午後②:三陸鉄道宮古駅にて 三陸鉄道復興のお話>



三陸鉄道株式会社さまのご厚意により三陸鉄道車両に乗せていただき、望月社長自ら三陸鉄道復旧・復興の歩みについてお話いただきました。
三陸鉄道と宮古市の住民の方々との深い結びつきや、震災後短期間での全線開通を目指した望月社長の揺るぎない決断、一丸となった社員さんの思いを知り、三陸鉄道が復興に果たす役割の大きさを実感しました。



三陸鉄道の電車の前で、望月社長さんと一緒に。



今回もたくさんの方のご厚意・ご配慮によって、この企画を行うことができました。ご協力いただき、本当にありがとうございました。生徒が見たこと・聞いたこと・感じたことを今後に繋げていけるよう校内での指導に結び付けたいと思います。



私たちにできることを考え、思いを形にしてゆきたいと思っています。
ありがとうございました。

(生徒のお礼状より 華道部部长、副部长)